



今人
能潜
明沈
新五
百題
东地高编
坤

文庫	合三第	藤井
册之内		門第
卷	番	号



俳諧明治新五百題卷之下



東京

橘田春湖

同撰

三森幹雄

下總

東旭齋

編輯

秋之部

文月

文月は空や淺黄の澄き〜

南枝

文月中 神をかくせぬ世を露〜

松英

文月中 風をさそひ別ら〜

霞仙

文月中 空をまよほぬ宵〜

虎遊

文月中 灯をぬき〜

旭高

立秋

秋を〜 空を掃み〜

芥舎

秋を〜 影を〜

三喜雄

秋

池水も底まで沈んでけきの秋
 ぬきつてまじ紫の秋やけきの秋
 山あてふ送る船けり今秋の秋
 今秋秋は暮るるや風のまははる
 今秋秋は暮るるやよもな履
 今もまじき秋銀やけきのあき
 うらまへし秋中のまじきや今秋の秋
 落つまじき一原風の落や今秋の秋
 梅のまじき秋あきの秋今秋の秋
 甚のまじき秋暮るの秋
 秋のまじき秋あきの秋
 踏ぬるまじき秋今秋の秋

五吃
 梅理
 柏英
 冠山
 石来
 梅吉
 磐石
 旭高
 方多
 山月
 三多
 可少

残 暑

花影やまじき途中の秋
 朝夕のおおまじき秋あつさう系
 井戸の秋あつさう系
 馬まじき秋あつさう系
 秋あつさう系
 秋あつさう系
 秋あつさう系
 秋あつさう系
 秋あつさう系

松谷
 喜我
 素素
 文宣
 唐彦
 科谷
 一飛
 梅月
 旭高
 和親
 唯風
 一市

秋 暑

雷の陳 新 涼

秋

稻素

ひや〜めや 渡〜結るの指さす	素来
か〜や〜ら〜忘〜 楓麻	ハ花
のあつまや 仕舞〜忘〜し門の牛	芥舎
のあつまふ里ハ安住ふ貴族也	堀水
稻素や ありね〜も磯が〜き	一撮
稻素や 登る層木の端ちか〜	うめ女
稻素あふころや 行や 後 屑	也 互
稻素あふ洲〜波〜や 丘の神	群雲
稻素あふ白少や 影のあまき 雲	芥岱
稻素あや 結るクア 阿波〜山	耕弟
稻素あふ霧の寝まに ひとま〜か	無一
稻素あふ霧中余り〜碑〜	喜徳

秋風

稻素あや〜門〜	桂花女
落〜か〜る〜稻のまや 衣の端	一 桂
稻素あや 山を〜たれ〜雲の色	梅暎
稻のまや 影もみえる 山のうね	馬石
のま〜あや おぼ〜み〜小〜	梅月
稻のまや 落のま〜み〜	梅一
稻ふ〜〜〜	梅若
田の氷の清き〜り〜秋のうせ	梅美
稻の〜〜〜料の白ひや 秋の風	上毛 糶為
庭〜〜〜〜〜秋の風	紗衣
稻も〜〜〜〜秋風のた〜小川	梅咲
秋風を〜〜〜海の〜	水茂

霧のせきくそつとあふやうや
 一つとあつてはつたあつたの
 白くあや柳あつたあつたの
 かのくくくくくくくくくく
 あつたあつたあつたあつた
 今つたあつたあつたあつた
 明うけくくあつたあつた
 つつあつたあつたあつた
 今つたあつたあつたあつた
 白くあや柳あつたあつた
 霧のくくくあつたあつた
 東つたあつたあつたあつた

葉 月 梅 岸 一 西 紫 杉 菊 布 孫
 葉 月 梅 岸 一 西 紫 杉 菊 布 孫

霧

霧のせきくそつとあふやうや
 一つとあつてはつたあつたの
 白くあや柳あつたあつたの
 かのくくくくくくくくくく
 あつたあつたあつたあつた
 今つたあつたあつたあつた
 明うけくくあつたあつた
 つつあつたあつたあつた
 今つたあつたあつたあつた
 白くあや柳あつたあつた
 霧のくくくあつたあつた
 東つたあつたあつたあつた

葉 月 梅 岸 一 西 紫 杉 菊 布 孫
 葉 月 梅 岸 一 西 紫 杉 菊 布 孫

落し水

秋

秋

岩一ツ廻りくく霞を御座り秋の節
 木一柱
 ときを盡くし深きやうへ秋の空
 南枝
 秋の空もひらきしや秋の空
 春城
 空の秋のうつろもあし秋の空
 青我
 影映る月の清きや秋の空
 松秀
 又て秋の月もあふる秋の空
 李瓊
 初月
 子ゆりやうやあき海の初月
 山石
 初月や日ほらうりやあき
 壽計
 雲もよみたる風の初月
 健大
 秋の初月やあきの白ひやあき
 梅窓
 あきの月やあきく霞り端の空
 晴月
 秋の初月やあきく霞り端の空
 秋の初月

初嵐

初月やあきく霞り端の空
 其作
 雲を初門の遠やあきく霞
 芥舎
 少ああ初つむりの空あきく霞
 秋産
 園の初産を初はあきく霞
 春遊
 う〜表あきく霞り端の空
 月窓
 産を初つむたあきく霞
 琴左
 初月の初産を初はあきく霞
 旭島
 秋の初産を初はあきく霞
 唐哉
 秋の初産を初はあきく霞
 才輝
 秋の初産を初はあきく霞
 市輝
 秋の初産を初はあきく霞
 芦碩
 秋の初産を初はあきく霞
 永探

礎

夕らまや 蔭の中かき 砧 叶 溪
 川よの 研海まき ぬこの 那 静 岳
 赤いせいの あらうと ちり 砧うふ 松 星
 杉風の 音も 悔ましく 小 夜 砧 梅 枝
 山彦の 果は 五月けり 小 夜 砧 赤 梅
 思ふふあ の 細き糸 少 夜 砧 旭 高
 結知の 出橋ふ あまや までし 結 青 殿
 角 砧 舟より 進み 角 力 不 陰 河
 立人 命おと ちも 動の ぬ 角 力 成 好 風
 大さし の 夕 日 小 夜 う 角 力 う 不 粟 碑 山
 古 金 人 か き 糸 綿 や 角 力 不 喜 城
 海より 心 や き 糸 角 力 う 那 百 之

花 火
 悔りた 人の 憂うり 过 角 力 風 鈴
 母 親の えの の 心 を 嘆く 角 力 う 不 梅 丘
 立 ち 上 る ぬ 泣 きの 花 や 角 力 取 周 高
 顔も 似ぬ 糸の 糸を よ 角 力 取 桑 山
 禱うも まい 祈り ちり 角 力 取 静 雲
 嘆かす の 悲しき 糸の 糸 や 角 力 取 一 字
 角 力 取 ちり の 糸を 送 り ぬ り 旭 翁
 願は ぬに 糸を 扱 た る 糸 火 う 不 一 道
 燈 籠 や 花 火 の 光 に し 泣 の や き くら 女
 消さる 糸の 糸を 送 る 花 火 哉 千 春
 又も 人の 心も 糸を 送 る 花 火 う 不 垂 菴
 糸の 糸の 糸を 送 る 花 火 う 不 一 得

深き水持て喉押の小森哉 旭高

菘麥 刈草や 毛玉中の小足や 冠山 李朱

刈草や 毛玉中の小足や 冠山

野菊 赤く何く 咲かぬ花 素風

赤く何く 咲かぬ花 素風

菘袴 晴風の 白ふゆや 若きま 若麟

晴風の 白ふゆや 若きま 若麟

葛花 水言ふ 竹の葉の 雪朗

水言ふ 竹の葉の 雪朗

女青 子心小 花の 柳水

子心小 花の 柳水

金剛州 跡を 金剛州 雪彦

草花 多きや 人も 園誓

多きや 人も 園誓

秋州 螢草の 花の 綴紙

螢草の 花の 綴紙

花班 山道の 花の 素盛

山道の 花の 素盛

名巡り 州小路 花の 市野

州小路 花の 市野

ちりちり 花の 元雄

ちりちり 花の 元雄

人言ふ 花の 新岳

人言ふ 花の 新岳

梅一 花の 三夢

若花の子 一ふさきおもきなりく若花の子 杉英

藍の花 鈴しつとく持し軽きり藍の花 一舟

芙蓉 夢はほろりほろりめのはく芙蓉 唯月

木綿取 鈴しつとく持し軽きり藍の花 杉英

赤慶州 なるまきくむ赤慶州やむ川 和歌

菘花 花はほろりほろりめのはく芙蓉 唯月

粟 たるこのれや粟穂きくはれかゆはる 旭高

稗 稗の川や瀬のふたふたなるやとら 倉吉

黍 黍の穂や粟より先へなるのれ 唯月

稗 稗の川や瀬のふたふたなるやとら 倉吉

黍 黍の穂や粟より先へなるのれ 唯月

稗 稗の川や瀬のふたふたなるやとら 倉吉

稗 稗の川や瀬のふたふたなるやとら 倉吉

稗 稗の川や瀬のふたふたなるやとら 倉吉

稗 稗の川や瀬のふたふたなるやとら 倉吉

稗 稗の川や瀬のふたふたなるやとら 倉吉

稗 稗の川や瀬のふたふたなるやとら 倉吉

稗 稗の川や瀬のふたふたなるやとら 倉吉

稗 稗の川や瀬のふたふたなるやとら 倉吉

稗 稗の川や瀬のふたふたなるやとら 倉吉

稗 稗の川や瀬のふたふたなるやとら 倉吉

稗 稗の川や瀬のふたふたなるやとら 倉吉

稗 稗の川や瀬のふたふたなるやとら 倉吉

稗 稗の川や瀬のふたふたなるやとら 倉吉

稗 稗の川や瀬のふたふたなるやとら 倉吉

秋

〇十三

早稻

己世の早中産と人ともあつぬ

米田

木蔵刈

己世の早中産と人ともあつぬ

旭島

芭蕉

己世の早中産と人ともあつぬ

柵下

被芭蕉

己世の早中産と人ともあつぬ

唇風

木槿

己世の早中産と人ともあつぬ

西美

桐一葉

己世の早中産と人ともあつぬ

淑人

己世の早中産と人ともあつぬ

招堂

己世の早中産と人ともあつぬ

芥秀

秋

〇十四

散柳

おおしふ月定あまをひと一葉うな
 相ひと葉落しくあふなり池の上
 起心よき影相のひと葉この那
 桐言——一葉の後の思ひつき
 余をまよふ風行く好相ひとま
 凡そ落しく暮らぬはや相ひとま
 柳へりを梅もく水や梅 嫌 嫌
 跡も葉不跡もまらりて梅もとま
 思ひを葉ふうつまら梅の梅 嫌
 影もま葉のち中梅——梅嫌 嫌
 花の付あうてこ——をうめの中とま
 尾を指く柳ちりまや葉まきさる

唐風 守身 寿延 静室 一派 芝罘 佳笑 其柳 紫隈 蒼影 旭毒 梅石

梅嫌

散れもあられあを海めの多柳
 ちり柳 静あふる白竹余うらふ
 散るかけの障あふ柳まき柳うか
 二層柳あかまらあまらちり柳
 根もゆふ跡白ひまらちり柳
 あくまらや日まきまら——う静あか
 夏引やまらも雨まら——夕まらり
 残あく引うらうら大豆の實入ま
 ちり葉まら西風送るや糸の中
 根も柳と葉のまきま西風う柳
 晴のひまら葉ゆるまら西風うら
 ちりまらまら葉まらまら西風ま

之葉 白竹 ちり 静室 松園 松尾 松民 醉花 風琴 芥舎 梅林

秋 蠅

おとろくや秋の 蠅も 和志 窓 左

秋 蚊

向きの 蚊や ひとりに ちか 知 新

蟻 螂

蟻 螂の 鼻の くらし 等 矢

蟻 螂の 力のか の 身 眠 海

蟻 螂の 斧の くらし 伏 龜

蟻 螂の 斧の くらし 子 柀

秋 螢

あきの 螢の くらし 没 汀

蛭 蛭

蛭 蛭の くらし 龜 遊

蛭 蛭の くらし 三 菱

蛭 蛭の くらし 津 川

蟋 蟀

蟋 蟀の くらし 竹 書

蟋 蟀の くらし 千 成

蟋 蟀の くらし 大 根 澗 洲

蟋 蟀の くらし 菊 山

蟋 蟀の くらし 菊 枝

蟋 蟀の くらし 梅 居

蟋 蟀の くらし 未 史

蟋 蟀の くらし 一 定

蟋 蟀の くらし 儀 珠

蟋 蟀の くらし 季 成

蟋 蟀の くらし 竹 書

蟋 蟀の くらし 雨 留

蟋 蟀の くらし 松 亭

虫

秋

放鳥	放生會	冬丸	松毛	五虫	甲虫	羊虫	但藏	茶立虫	蝶
一羽のよきとていふまじやもまじい	余の念ふく轉くまじや放生會	冬丸をも寄すゆゑのくまの	まつ毛もやがむねを宿す松毛	五虫もやおのりまじの相の若	甲虫もまじいふあじい甲虫	羊虫もまじいのまじいまじい相の尾	但藏もまじいまじいまじいまじい	茶立虫もまじいまじいまじい	蝶もまじいまじいまじいまじい
旭翁	木園	旭翁	季成	玄黙	謝孫	逸憲	不統	旭翁	唯風

駒引	駒迎	葉月	竹春	二百十日	八朔
駒引も寄すゆゑのくまの	たてまつるまじいまじい駒迎	空まじい澄くあまの葉月か	竹のかね名の如白も木のまじい	まじいまじいまじいまじい	八まじい八まじいまじいまじい
唯風	子柳	雪琴	宗孫	柳子	荳路

秋

月夜

ふかきうららかな月影を照らす今宵の夜
花影の

月見

さしつゝ月の光を眺め静かな月影の夜
二光

待宵

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
梅如

明月

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
吉水

待宵

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
窓柳

明月

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
千里

待宵

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
南校

明月

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
虎遊

待宵

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
遊月

明月

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
佳大

待宵

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
福居

明月

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
貞之

待宵

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
素人

明月

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
季成

待宵

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
旭高

明月

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
慈二

待宵

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
等哉

明月

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
森遊

待宵

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
表柏

明月

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
甚一

待宵

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
柳眠

明月

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
厚室

待宵

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
吉里

明月

あつとひの待たぬ夜を待たぬ月影の夜
喜豊

不具のつらさのふかき一々の月 晩言
 夜をいとぬるの度きよき月の 知温
 月の代りつらさの月ありつらさの月 里音
 夢をささふたうと生花をんつらさの月 玄黙
 山ありと海をくらむ中つらさの月 花角
 獨酌のさう海をささよつらさの月 琴文
 つらさの月空の満ちてゆくまきまき 風二
 みのむしも暮れゆくまきまきの月 旭高
 江を流るるつらさの月を月つらさの月 松亭
 舟より舟をささくせつらさの月を月つらさの月 林月
 舟をささくせつらさの月を月つらさの月 竹苗
 舟をささくせつらさの月を月つらさの月 橋居

月今宵

既望

いさよの月の影に合鏡の鏡き哉 久榮
 いさよの月の影に合鏡の鏡き哉 以一
 いさよの月の影に合鏡の鏡き哉 立風
 海ありと海ありつらさの月 橋居
 雲多き秋の月又い月ありつらさの月 春湖
 垣根ふみ春をささくせつらさの月 仙林
 夜のふもつらさの月を月つらさの月 秋五
 舟もつらさの月を月つらさの月 松英
 池ありと海ありつらさの月 其山
 夢をささくせつらさの月を月つらさの月 定路
 晴く夜をささくせつらさの月 南舎
 名もつらさの月を月つらさの月 陰風

秋月

秋

星月夜

夕ぐさふ菊の咲く星月夜

千成

初汐

初汐や思ひかけ糸掛 枕

月窓

秋雨

去るまじともささく秋の雨

素青

秋庭

掃除しそ淋しく志す秋の庭

田柳

秋門

ちりいほ葉ふまきれ秋の門

厚版

秋日

送るまじふも秋の入りけ

胡蝶

秋日和

掃除し掃除し日なり秋日和

旭高

暴風

夜より雨の二日ほく秋日和

林月

秋鐘

つらき秋の鐘

松奎

秋勢

あまほろおき秋の勢

雪葉

秋鐘

あまほろおき秋の鐘

可疎

秋鐘

あまほろおき秋の鐘

虎遊

秋鐘

あまほろおき秋の鐘

勝川

後徳卷

とももも実の後の徳卷うさ

物水

日の野のみくうた徳卷の徳卷

言な

秋夕

ひと白つゝまもものそとく秋の夕

東湖

携ふ遠くふまの朝りや秋の夕

竹亭

後くうゝまを徳卷うさあまの夕

末風

あゝまゝ秋の気老の夕アウ那

一柳

我のゝますゆゑ徳卷うさ何きの夕

善後

るゝまゝくゝまのまもも秋乃夕

本見

秋の夕まろくくくうりゆく

お海

あゝまゝくゝまのまもも秋の夕

露白

葉のけくゝまはまゝまゝ秋の夕

虹橋

あねのまもも徳卷うさ秋の夕アウ那

如南

あつけくゝ徳卷うさ何きの夕

老月

植あな屋のまゝくゝまのまもも秋の夕

梅一

何ひくゝくゝまはまゝまゝ秋の夕

千里

相抱くゝくゝまはまゝまゝ秋の夕

寺後

夏野も浮あまひくゝま秋の夕

旭高

田をまゝくゝまはまゝまゝ秋の夕

る節

まのけくゝまはまゝまゝ秋の夕

二水

あゝまゝくゝまはまゝまゝ秋の夕

風琴

船うゝのむくゝまはまゝまゝ秋の夕

旭高

濁くゝまはまゝまゝ秋の雄神川

本見

さゝまゝくゝまはまゝまゝ秋の川

寺地

流のあまゝくゝまはまゝまゝ秋

栗石

芋

淡くても味もよくて芋の籃

喰風

秋の一日多振あり芋のつゆ

宅造

鬼灯

鬼灯の細やちひさね星の如

洪水

ほつつきのなるく赤い艸の中

沼水

ほつつきの赤い花の輝く文使ひ

牛渡

ほつつきの赤い花の輝く文使ひ

千里

あつたきや思ふやうあつたき

垂衆

蓼花

るいごあともるいごり蓼の花

其儘

木通艸

人のまはつたぬきやあつたき

静瀬

蒲萄

あつたきのあつたき蒲萄の勝の部

素壽

あつたきのあつたき蒲萄の勝の部

柳翠

あつたきのあつたき蒲萄の勝の部

栗山

蓮實

あつたきのあつたき蓮

和親

稻

あつたきのあつたき稲

曲川

あつたきのあつたき稲

文藝

あつたきのあつたき稲

仁皇

あつたきのあつたき稲

稲石

稲の殿

あつたきのあつたき稲

素山

稲川

あつたきのあつたき稲

淑人

あつたきのあつたき稲

春我

晩稻

あつたきのあつたき稲

喰風

稲秋

あつたきのあつたき稲

志一

今年菜

あつたきのあつたき稲

旭高

あつたきのあつたき稲

連糸

秋

穀

唐辛子

木犀

水引州

毛呂改松

法標 薬垣

秋茄子 瓢

唐辛子まき、秋の法標や、薬垣

穀、唐辛子の、唐辛子の、唐辛子の

唐辛子の、唐辛子の、唐辛子の

唐辛子の、唐辛子の、唐辛子の

唐辛子の、唐辛子の、唐辛子の

唐辛子の、唐辛子の、唐辛子の

唐辛子の、唐辛子の、唐辛子の

唐辛子の、唐辛子の、唐辛子の

唐辛子の、唐辛子の、唐辛子の

唐辛子の、唐辛子の、唐辛子の

唐辛子の、唐辛子の、唐辛子の

の梅

の突

梅居

并全

文彦

石芝

うめ女

思弁

旭馬

田柳

秋園

毛呂改松、秋の法標や、薬垣

法標、唐辛子の、唐辛子の

薬垣、唐辛子の、唐辛子の

秋茄子、唐辛子の、唐辛子の

瓢、唐辛子の、唐辛子の

唐辛子の、唐辛子の、唐辛子の

唐辛子の、唐辛子の、唐辛子の

唐辛子の、唐辛子の、唐辛子の

唐辛子の、唐辛子の、唐辛子の

唐辛子の、唐辛子の、唐辛子の

唐辛子の、唐辛子の、唐辛子の

唐辛子の、唐辛子の、唐辛子の

梅居

旭馬

附孫

郁哉

一柳

紫窓

梅理

末風

厚尾

橙秋

梅居

秋

菌

例よきつりまき菌の白ひら
 菌のきふ不降ふられき 机
 竿うらららけの書の透 葦の多
 自をかせい舞もあまや菌の花
 活くくく魚津のき多花や菌の花
 力あき松まきれり 葦一持
 葦一持や 功者ふ人ふ附く行
 葦一持や 折く友不かせくき
 葦一持や まる風白ふ松くり
 葦一持や 多舞しきまきあま
 葦一持や 走へん松つんき
 去年一舞一山も忘る葦一持

新 玉 介
 舞 玉
 文 義
 木 洞
 飛 月
 本 一 生
 身 周
 松 影
 三 路
 一 郎
 一 字

天物葦

松葦

秋葦

紅葦

菌

松露

そ秋あとりまきもき松葦
 天そりれや 松葦一持の機 機
 秋葦の日の中一持 移る 山
 まつりけや 風掃もからき子料理
 秋葦や 氣のきぬふ又ひら
 ちあけあき出る松葦のやせり
 へきも明く自ひの本のりう
 人のきるあまきまの木のり
 孫くくく若くも生る菌う
 屏のぬふ一知のききめり
 んうけふらうぬ松露の風掃 新
 老うつの本うらららき松露かき

季 成
 晴 月
 汶 汀
 芳 賀
 画 村
 操 居
 此 山
 三 考
 松 密
 赫 眠
 清 宜
 旭 高

初雁

雁

まつたやよその時を踏きまゐる	雨
あそびつらん今宵もつかりの聲	菘
まつたやよそもさきさきぬ浪の上	月
あそびつらん形つて濁るやるの	蘭
昔もねも喊りて夜はやの聲	知
るんふもあやみの空やの聲	文
なまもよや空の波のまき	野
地もつりて又てあそびの空	鳥
ぬれまゐる聲のまき	貞
あそびつらんぬる波の聲	之
あそびつらん雁のまき	一
月もせつてねるもの	花

白鷺のまき	遊
あそびつらん月の中	作
あそびつらん月の中	世
あそびつらん月の中	御
あそびつらん月の中	友
あそびつらん月の中	宮
あそびつらん月の中	城
あそびつらん月の中	如
あそびつらん月の中	蘭
あそびつらん月の中	喜
あそびつらん月の中	我
あそびつらん月の中	笠
あそびつらん月の中	友
あそびつらん月の中	熟
あそびつらん月の中	月
あそびつらん月の中	起
あそびつらん月の中	條
あそびつらん月の中	陰
あそびつらん月の中	年
あそびつらん月の中	中
あそびつらん月の中	用
あそびつらん月の中	澄
あそびつらん月の中	潤

秋

新製する名を名前の第や為の勢

一竹

天津尾

聲 色 味 質 味 質 味 質 味 質

龍虎

はくちりてんてんてんてんてん

旭高

乾

ひるもや 時をかきくは 歳ふま

晒

乾

うつてんてんてんてんてん

松月

かひくはくはくはくはくはく

壽玉

首まをりてんてんてんてん

南枝

くもる日おしけいおももももも

葉窓

山雀

ゆりてんてんてんてんてん

雪窓

小雀

短身おしけいおももももも

去路

四十雀

十のふちをもももももも

子来

もももももももももももも

好古

五十雀

毛

ゆりてんてんてんてんてん

雪窓

渡

雪ふちをもももももも

春湖

渡

もももももももももももも

昇山

茂のてんてんてんてんてん

梧成

米園おしけいおももももも

等哉

扇のてんてんてんてんてん

大乃

目業の利てんてんてんてん

為唐

思ふより好まるか程てんてん

園誓

目白 せんかおのこまもももも

吟風

掠る 搦の風掠るの来てんてん

旭高

秋

三十三

頰赤 通し 舌の頰白や 萩のまふり 季成

頰白 百生れく 指ふきり 鳴頰白 一水

帰燕 杉の多きを 弱せし 仰るこきり哉 くら丸

鳩吹 鳩吹や 啼らら申る 顔の皺 豊旭

木啄鳥 木啄の 憾悔も 去らるるや 奇孝

尾長鳥 木のきや 枝も 芥のあてぬ枝 也呈

稲雀 木のきや 夕日か くるそ 神の森 清月

尾長鳥 木のきや 夕日か くるそ 神の森 花山

稲雀 木のきや 夕日か くるそ 神の森 園山

稲雀 木のきや 夕日か くるそ 神の森 可嘯

稲雀 木のきや 夕日か くるそ 神の森 月望

稲雀 木のきや 夕日か くるそ 神の森 若辰

鶯山別 鶯の 声も 去らるるや 萩の 旭音

雀成鈴 鈴の 声も 去らるるや 萩の 吟風

雀成鈴 鈴の 声も 去らるるや 萩の 西災

雀成鈴 鈴の 声も 去らるるや 萩の 梧塔

鳴子 夕の 声も 去らるるや 萩の 霜村

鳴子 夕の 声も 去らるるや 萩の 仰哉

鳴子 夕の 声も 去らるるや 萩の 雀友

鳴子 夕の 声も 去らるるや 萩の 芥舎

鳴子 夕の 声も 去らるるや 萩の 千海

鳴子 夕の 声も 去らるるや 萩の 梅月

鳴子 夕の 声も 去らるるや 萩の 可洗

紅葉射

秋蝶

潮きむね一庭もくく遠くをゆく

秋つてふゆきやむきくく戻りたり

小ゆき花の叶小舟舟や秋の蝶

もく死ハ心の中、あきこの蝶

阿きの蝶風の静けさを遊ぶ

植木屋ハ疾く起るあり秋の蝶

深かき〜まきもまき秋のそふ

秋遠くふ人の間をゆくあきそふ

花うきあきこの太らき秋の蝶

あきの蝶さつらひをまかぬ

遠くあき千舟のあき秋の祭

秋と列も秋の人も御近宮

御近宮

友居

雀友

友文

仁里

鵬山

暉堂

列雅

五房

若山

一瓢

長和

柳圃

家尾

旭齋

千里

季成

流水

二水

露脚

元雄

帰雲

素壽

持江

竹解

九月盡

九月盡

九月盡

九月盡

九月盡

九月盡

九月盡

うらみ候の秋うねあき〜九月盡

廣庭の秋もあき〜九月盡

庭舞ハ雨因古〜九月盡

十月の雨あきまはあき〜九月盡

十月の雨あきまはあき〜九月盡

十月の雨あきまはあき〜九月盡

十月の雨あきまはあき〜九月盡

秋

長夜

十月やよみ月あふるるの門	也
十月や城の楼自もわかれうら	茶庭
十月やうらふくく日みきき山	竹陰
十月のふ小萩うら	南校
十月の月ねを土の軒、あ	知縁
庭をのりてあふるるはり	遊坊
あきあやみかけあきと荒	白所
あきあきあきあきの夜あき	碓田
あきのあきあきあきあきあ	南木
あきあきあきあきあきあ	石坂
あきあきあきあきあきあ	対嶽
あきのあきあきあきあきあ	梅咲

夜寒

あきあきあきあきあきあ	梅咲
あきあきあきあきあきあ	あき
あきあきあきあきあきあ	作用
あきあきあきあきあきあ	菴新
あきあきあきあきあきあ	多柳
あきあきあきあきあきあ	梅咲
あきあきあきあきあきあ	文室
あきあきあきあきあきあ	雪朗
あきあきあきあきあきあ	石芝
あきあきあきあきあきあ	翠葉
あきあきあきあきあきあ	晚雪
あきあきあきあきあきあ	市尺

漸寒

露寒

初寒

秋

秋色

秋田

秋深

冬隣

草の穂は秋のそと 秋の 露の 時 百 嶺

海はしり 水もも 石の 秋の 電 果 糖

山の 余りも 秋の 秋の 雪 琴

秋の 影も 秋の 秋の 喜 湖

雨の 秋の 秋の 秋の 菊 枝

秋の 秋の 秋の 秋の 秋 左

秋の 秋の 秋の 秋の 秋 珠

秋の 秋の 秋の 秋の 秋 雪 洲

秋の 秋の 秋の 秋の 秋 露 御

秋の 秋の 秋の 秋の 秋 換 月

秋の 秋の 秋の 秋の 秋 赤 雪

秋の 秋の 秋の 秋の 秋 梅 花

行秋

菊

川 秋の 秋の 秋の 秋の 秋 隆 年

秋の 秋の 秋の 秋の 秋 一 步

秋の 秋の 秋の 秋の 秋 露 舟

秋の 秋の 秋の 秋の 秋 露 外

秋の 秋の 秋の 秋の 秋 露 外

秋の 秋の 秋の 秋の 秋 露 外

秋の 秋の 秋の 秋の 秋 露 外

秋の 秋の 秋の 秋の 秋 露 外

秋の 秋の 秋の 秋の 秋 露 外

秋の 秋の 秋の 秋の 秋 露 外

秋の 秋の 秋の 秋の 秋 露 外

秋の 秋の 秋の 秋の 秋 露 外

秋

少産多小菊の息をくちる菊白穴 總月
 菊の息や 葉を扇るのふもきれは好 梅月
 余ら菊の息をくちる菊と思ふもきくす 瓊月
 暖うせく口の唇り 神多り 園の菊 遊雅
 買の菊や 真ん中なるものも余り 如山
 菊の息や 源氏ふくれり 氏タア 也豆
 菊の息 ありとも 同く白ひらふ 以一
 人きくふ身の傷や 菊さたけ 竹左
 雪まかりたるも 洗ます菊の息 雪洲
 移すも菊 一もくけ 移ふたり 五松
 菊の息や 人移らうき 徳兵衛寺 野紅
 菊の息や 花を振く 軒の底 南茂

一のりの中菊の息 息やきくくの息 壽山
 一あふく花とくや中を菊の白ひらふ 一飛
 一花風をくちる 廊下やきくくの花 市尺
 一旅人のあしをどあや 作り菊 一沼
 一垣外へ菊の息入り 作り菊の息 芦洲
 一園あまき菊の息 作り菊の花 言我
 一菊の息も 菊の息 作り菊の息 儀深
 一菊の息も 菊の息 作り菊の息 壽山
 一菊の息も 菊の息 作り菊の息 修外
 一菊の息も 菊の息 作り菊の息 雪朗
 一菊の息も 菊の息 作り菊の息 半礫
 一菊の息も 菊の息 作り菊の息 春湖

秋

○四十

萬

道しつゆを連ねて海に苦の道

里粒

信き筆もかりた念く苦の宿

千粒

萬紅葉

やとく木ふ秋の枯葉や苦の葉

文室

神くくの葉火くつや苦の葉

良保

苦の葉も入るまうけの木の幹

子末

苦の葉も引まぬ道や苦の葉

操子

指の葉

遠くまをき指の葉や海の小川

旭高

野山縁

山をけ屋ふ引舟の縁くふ

梅茶

指の葉も移かまらぬ舟の縁

半窓

龍膽

まんとくや花をくくく土取畑

唯風

まんとくや岩ふからくくこれ蟹

逸窓

菖花

うきくわや草の味も花ふ

番村

苦菖

柳の葉やたもく草の葉とま

舌結

鶯の葉

お徳舎の味もまらぬ草

春向

つらまも回く草の葉

如蘭

鶯の葉も細くくある葉の内

梅茶

鶯の葉も細くくある葉の内

甘石

鶯の葉も細くくある葉の内

料系

厚木

まやまの葉も厚木

春玉

秋の葉も厚木

春雅

鳥が

あまの葉も厚木

春危

末枯

あまの葉も厚木

文義

秋

茶をむく一掃くくくくや揚の耳

蛇穴入

の穴を掘るや蛇ハ古き中々く

今年米

はくく帆や新米時の膝入

神一掃く備くくくやこく米

厚く白の結ふ光りやみく米

新米の信ふ新ハ形くくく

まふわや風もくくく後の上

新酒

一口ハ味くくく各新酒ハ

顔もくく酔ハくくく酒

精の中くくく通く新酒ハ

ゆけくくく目かくく新酒ハ

ゆけくくく目かくく新酒ハ

酔くくくあくく新酒ハ

流くくくあくく新酒ハ

川銀せハくく新酒ハ

亭一ッ結ふく新酒ハ

早稲酒

己世酒や神くく米の白

ぢひろくく米の白

醪

あくく米の白

中汲

中一汲や多割の種くく

柚味噌

あくく柚くく米の白

結くく米の白

猿酒

精酒ハくく米の白

寥湖

冠山

くめ女

隆年

圃柳

南竹

李成

長雪

吾柳

可嘯

花角

栢

遊月

長月

露人

重軌

石芝

雪海

良虎

一水

松壑

遊の星

可録

秋

〇四十七

菊 澗

花をく下戸も好むくまくの酒

季成

新蕎麥

中戸もくも進く出たりきくの酒

萱旭

夫 様

新をばや 新米よりも地をたふ

雪洲

夫 様

何れくくの人も新米よりも地をたふ

吉 東

冬 穉

傍あくくも新米よりも地をたふ

過 義

朗 詠

万箇の秋くも新米よりも地をたふ

木 洞

神無月

秋のあけくも新米よりも地をたふ

新 月

初 冬

米舟ののほくも新米よりも地をたふ

一 暹

初 冬

かきく秋のほくも新米よりも地をたふ

佳 実

初 冬

秋らきく秋のほくも新米よりも地をたふ

一 字

初 冬

秋らきく秋のほくも新米よりも地をたふ

作 石

初 冬

秋らきく秋のほくも新米よりも地をたふ

致 月

冬

四十八

初時

蓬嶽の雪もさしつゝのやふゆらなり
 拾月
 葉方根もふも裂りし海や冬もなり
 旭島
 海へ舟も大船のさむけを初時
 西村
 志らふやもを傳ふかきに初時
 南枝
 雲のやまもあまのさかしのあつゝ
 一生
 目をあまのさかしのあつゝ
 素摩
 早の空おしつゝ初時
 豊旭
 愁をこゝろもさかしの初時
 桂月
 の舟も出船の中をさしつゝ
 素摩
 さしつゝ初時
 共盛
 非露の霧もさかしの初時
 旭島
 瀬の傍もさしつゝ初時
 宗島

一のぬきも里の夕日初時
 早哉
 若引の雲もさかしの初時
 濠水
 天の霧の中海もさかしの初時
 二光
 初時
 守朴
 初時
 竹用
 初時
 南枝
 初時
 益友
 初時
 雲舟
 初時
 虎遊
 初時
 香檳
 初時
 丹左

冬

墨の如しと親家ちひきく付あり
 下まゝく渡りきふやむしつまう非
 あしつゝは又は向ふの時あり
 まつしつゝは又は向ふの時あり
 雪まかりしや時あり
 野外の空ふめをやる時あり
 晴なりあゝの病き時あり
 推ふ張る海邊の冬き時あり
 時ありやおぼを片とる都
 町並や斤例をたむ村
 疾風のきよりたまやき
 山をゆく海をゆく

信松本
ヒタキ
良月

松巻
 伏魔
 鏡海
 曉月
 梅曦
 魯周
 花弄
 雪石
 梅茂
 梅月
 赤虎
 良月

浪風のやまき考あり
 傘さしつゝは又は向ふの時あり
 多きれしや
 まつしつゝは又は向ふの時あり
 越え方を借り合ふ
 葉ふも酒先ふか
 時ありや
 川田皆喜む
 かまはれしや
 野あつゝは又は向ふの時あり
 新しき

可初
 赤山
 春萍
 梅理
 花静
 曉月
 芥菜
 比山
 遊燕
 延松
 作葉

冬

志しきや 柳のまきもぬきし 人のね 旭高
 後暮の昔も神のふし くらりか 圃柳
 引くり 非るのぬきし 時雨うか エウ中 才
 時雨や ちほりする 小舟はたす 一舟
 江の上や 時雨と 舟のふしと 白雲り 也
 時雨や 今も 舟の編りし 最 陸松
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 一圃
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 半棘
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 基丸
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 南枝
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 三連
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 涼坪
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 白洲

初霜

ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 半棘
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 基丸
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 南枝
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 三連
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 涼坪
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 白洲
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 素鱗
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 蹊三
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 虎心
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 洋一
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 芹糖
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 稗圃
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 木一生
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 飛年
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 紫珠
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 文貞
 ちきれり 雪のよもぬき 時雨か 光高

初氷

炭

冬

〇五十三

炭の火のまきく夜添き旅宿の家 岩代 隨雄

炭の火の中へ膝をうりよせし女房道 情書

撰書の業解らしきよ池田炭 梅若

何の本も書めしつゝあり序の炭 柏英

花せ果るよふあまれ炭 儀 虎遊

照引と跡の跡走や起り炭 遊坊

まね屋やけはきまきねて又狭む 市雪

次是くしたのき炭の白ひる家 一飛

炭の飛中 烟りの白く夜の色 茅碩

炭の飛中 烟り遠く切り雪の色 岡老

炭の飛中 山のくくるとひと烟り 風袋

炭の飛中 山のくくるとひと烟り 風袋

炭の飛中 山のくくるとひと烟り 風袋

炭の飛中 山のくくるとひと烟り 風袋

炭の飛中 山のくくるとひと烟り 風袋

炭の飛中 山のくくるとひと烟り 風袋

炭の飛中 山のくくるとひと烟り 風袋

炭の飛中 山のくくるとひと烟り 風袋

炭の飛中 山のくくるとひと烟り 風袋

炭の飛中 山のくくるとひと烟り 風袋

炭の飛中 山のくくるとひと烟り 風袋

炭の飛中 山のくくるとひと烟り 風袋

炭の飛中 山のくくるとひと烟り 風袋

炭の飛中 山のくくるとひと烟り 風袋

炭電

粉炭

巨燧

置巨燧

囲炉裏

火鉢

冬

松向冬々客ふ栲火の表か那

わらわらして山如くわらわらして

分別もあはく焚て居るわらわら

栲火をく織るわらわらや多むら

思ひ切くわらわら焚たりわらわら

焚ゆきわらわらわらわらわらわら

指ぬりきくや其他のわらわら

好栄やわらわら夜もひらわら

居のわらわらや多むらわらわら

ろ屏や京の傳りもわらわら

口切や幸ひむらわら延き日

口切と共の焚たりわらわら

内云

梅珠

松密

雲海

檀御

可絲

栳月

保鹿

可絲

西河

山石

院島

寒

口切ふは幸ひむらわら海若

石風名のわらわらわらわら

流急のわらわらわらわらわら

廻板のわらわらわらわらわら

半まきのわらわらわらわら

車戸の空走りまらわらわら

船舟の焚火のわらわらわら

塗面の臭のわらわらわら

雪を落したわらわら寒を

朔風をく清くわらわら寒の

我が家のわらわらわらわら

万古のわらわら風をくわら

旭高

五層

如層

喜湖

南枝

文庭

宿霧

可少

一風

飛月

蘭庭

一素

冬

葱

葱の葉やあけき風ふらふらぬ場所
 形似や花の影うらー 垣のうら
 かきねあまの襟まきー 多何衣
 巾着や芳うらまれハ味女を
 多何や若ーまぬのまねハ如
 向ーまも流らうまなりー 涙意
 糸もききまけのものハ涙ハ葱
 葱の葉やあけき風ふらふらぬ場所
 竹の葉や若神もらぬひらうら
 月少らうら若くハ赤き相伝うら
 葱の葉やあけき風ふらふらぬ場所
 葱の葉やあけき風ふらふらぬ場所

一柳 繁松 松瀬 陸風 浪波 連水 田柳 祖有 務若 曆宝 竹窓 健周

山茶花

さーん茶や葉の影うらー 月の斜
 さーん茶や若のきく人を門あ寄
 さーん茶の垣根うらまやー 多子
 さーん茶やあけき風ふらふらぬ場所
 さーん茶や花の影うらー 下やまき
 さーん茶のちやま茶あけき風ふらふらぬ場所
 陰日向さーん茶ハは進運ハの那
 さーん茶や四角のたてハ日の仲ら
 さーん茶や隣ハ度き以やー 多
 さーん茶をかきうか通うり月傳
 さーん茶や茶巾千やとまらぬま

下丹 貞花 陶鷲 山 萃英 幹月 末玄 晒了 西 五悦 東逸 月州 一

冬

枯 萩
茶の花

よみ所のみろくく目き途 枯尾花
一さゆふ夕日ふあふりーかき尾花
枯さきさや華もこそふ推くさく
茶の糸の圃ふちひきき茶う那ー
茶の糸をーうらと字けて居く文
茶の糸や斜ふあくる夕日うけ
茶の花のゆき白ひもーくのあり
茶の花やーとりーさるるあの中と
茶の花ふまきさ日の上は垣根うか
茶の花やう路を候もよけ通り
茶の花やありーえ中るー一 梅

旭
後林
子来
百谷
松嶺
紫隨
雪朗
守松
萍英
柏二
河旭

枯 野

あかしの風起るうらひや 枯野 系
りのすねく休そ 枯野の 枯 俾
横の糸のさきやゆりかき野うか
ふ二えくく一息つーやかきー系
梅もとわくまやかきあく破 差
うらーき空を冠うー 枯野うか
さきー目け清くー茶のあき 枯野うか
曲る途のえ中る 枯野あー茶のあ
ゆき海まやうふかき野の夕日 日
又そ川をふんもあーむ 枯野うか
梅うああのうら向ううかき野うか
茶のうーやうあ 枯野うか

芝眼
芹舎
くら丸
南枝
生里
可嘴
梅花
柏二
陶新
文義
青哉
松亭

冬

枯木を吐くよよと 越みたり 旭

冬枯 夕世 得水

雪もふく 冬かきく 月影のまはり 水

霜枯 霜かきや 多記世まのついでかき 水

枯菊 枯らまぬ 白ひや 菊にかきす 枯枝

枯野 朽世のまはりま 朽世の 朽世の 枯木

夢蔴 夢蔴と 是れは 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴

夢蔴や 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴

冬牡丹 夢蔴のまはりま 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴

冬牡丹 夢蔴のまはりま 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴

夢蔴のまはりま 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴

冬牡丹 夢蔴のまはりま 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴

夢蔴のまはりま 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴

冬牡丹 夢蔴のまはりま 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴

夢蔴のまはりま 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴

冬牡丹 夢蔴のまはりま 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴

夢蔴のまはりま 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴

冬牡丹 夢蔴のまはりま 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴

夢蔴のまはりま 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴

冬牡丹 夢蔴のまはりま 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴

夢蔴のまはりま 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴

冬牡丹 夢蔴のまはりま 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴

夢蔴のまはりま 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴の 夢蔴

冬

散紅葉

夕風の風かきかき 夕風の 夕風の 夕風の 夕風の

魏月

枯 艸

多枯の節なき小根の味ある節

花 角

宿葉の枯る節のふくむる味

泉 溪

枯 蕨

かきとくく、蕨の節の味ある節

石 文

冬 艸

一ひらふ吹きくまれく冬の艸

家 左

大根引

五文の力をかきく大根引

上子

笹 氏

下結かけを由ん裁る節の根引

等 裁

引あがりくまふ節の味大根引

花 角

海をゆる小根の味大根引

南 枝

管あがりく小根引退きく大根引

茶 盆

大根引くまをぬくむる葉を大根引

花 民

一葉の根引く大根引

葉 青

枯 根 引

根引の味ある節

昆 明

木 の 葉

月木一 夜く夜くく大根引

芥 舎

藤人の節の味ある節

松 亭

葉拾ふ節の味ある節

葉 香

終るく節の味ある節

葉 小

山の井を根引く大根引

葉 間

葉の味ある節

木 籠

葉の味ある節

里 丸

葉の味ある節

位 大

水の邊の味ある節

能 橋

葉の味ある節

柳 舎

葉の味ある節

葉 香

鴨之くもあはれ淵一や池の園 一帯
 鴨之くもあはれ淵一や池の園 暉小
 鴨之くもあはれ淵一や池の園 柳眠
 鴨之くもあはれ淵一や池の園 木身
 鴨之くもあはれ淵一や池の園 吾風
 鴨之くもあはれ淵一や池の園 石床
 鴨之くもあはれ淵一や池の園 亦宏
 鴨之くもあはれ淵一や池の園 南枝
 鴨之くもあはれ淵一や池の園 言海
 鴨之くもあはれ淵一や池の園 祖高
 鴨之くもあはれ淵一や池の園 稔米
 鴨之くもあはれ淵一や池の園 乙子女

冬雁 鶯

浮舟

千鳥
 夜更しく千鳥は群とあわたり 木暮
 秋をこめて鳴響く松浦 深 水扇
 二三所をまわるとやあはれとあり 菖蒲
 江戸界の潮も通ふあはれとありのね 柳光
 けさのしそ空もまきちしりうか 水扇
 浪のくもあはれ出ぬらあはれとあり 柳光
 月まかりうとあはれ浪もあはれとあり 竹澄
 海よりあはれあはれあはれとあり 柳光

鶯子鳴

春考つ戸口服くやうとほくわ
つまらぬ目の志くしきなりこまき
さくほくや目くしきなりこまき
さくほくや目くしきなりこまき
さくほくや目くしきなりこまき
さくほくや目くしきなりこまき
さくほくや目くしきなりこまき
さくほくや目くしきなりこまき
さくほくや目くしきなりこまき
さくほくや目くしきなりこまき

竹世
糸林
一見
琴城
素淵
湖造
水也
良保
蕉露
佳大
旭高

冬 蠅

冬 蠅
二ツ右く書く小なるは冬の蠅
おるおくし何を保るそ冬の蠅
おるおくし何を保るそ冬の蠅
おるおくし何を保るそ冬の蠅
おるおくし何を保るそ冬の蠅
おるおくし何を保るそ冬の蠅
おるおくし何を保るそ冬の蠅
おるおくし何を保るそ冬の蠅
おるおくし何を保るそ冬の蠅
おるおくし何を保るそ冬の蠅

一部
日月
天遊
毒厚
不音
旭高
水不
噴風
木懸
半窓
一凡

紙衣

老樂の着く上玉きる紙衣の形

庭をふたりのゆりや打し幼きうせ 綺石

表しくおききひくく初きうせ 下橋

持てておとけあもまひく初きうせ 高庵

切やや南のくまき初のーた 紫月

切ふーや春の膝部のを合せ 宮城

ふりや内子あはてくまき初ー 清水

風を吹ふ船の清きあ直りたり 冠山

干菜とくまき初のそく初りあ 抱月

夜はれや干菜のたぐく春を人の空 下風

細きとく干菜のあや初のーあ 雲山

此ーまき風を吹くまき初干菜あ 紫菜

神旅 ああをきりてくへーの神の旅 五松

神留主 鈴夕のどまーかまき初のをまき 暖山

月のおく清くくまき初のをまき 右枝

勇くまき初の清くまき初のをまき 一風

神もまき初るまき初の日初りあ ^{上主} 虹橋

神迎 歌鬼の尾鱗くくまき初のーあ 三石

ひき初るまき人のひき初るまき初 紫史

たし初るまき初の中まき初のーあ 得山

神送 吹くまき初るまき初るまき初る 崖友

神送くまき初るまき初るまき初る 好古

神楽 言のまき初るまき初るまき初る 竹田

環のまき初るまき初るまき初る 去人

氷柱

月のより 改作の 氷柱の 氷柱の
氷柱の 氷柱の 氷柱の 氷柱の

氷柱の 氷柱の 氷柱の 氷柱の

氷柱の 氷柱の 氷柱の 氷柱の

氷柱の 氷柱の 氷柱の 氷柱の

氷柱の 氷柱の 氷柱の 氷柱の

氷柱の 氷柱の 氷柱の 氷柱の

氷柱の 氷柱の 氷柱の 氷柱の

氷柱の 氷柱の 氷柱の 氷柱の

氷柱の 氷柱の 氷柱の 氷柱の

氷柱の 氷柱の 氷柱の 氷柱の

冬

冬 雨 後 高

冬 雨 以 一

冬 雨 文 致

冬 雨 静 閑

冬 雨 素 人

冬 雨 伎 勢

冬 雨 可 法

冬 雨 菊 庭

冬 雨 本 一 生

冬 雨 雪 江

冬 雨 米 小

冬

〇八十一

河豚

素壽
 名菜
 二光
 悦月
 松圃
 能川
 若村
 杉亭
 延松
 正前
 一水
 雪洲

藥食

知十
 釜友
 千成
 清水
 静子
 月窓
 秋園
 名深
 一柳
 千菓
 若友
 漱水

鶏印酒

臘八

生若酒

針印

知十
 釜友
 千成
 清水
 静子
 月窓
 秋園
 名深
 一柳
 千菓
 若友
 漱水

大原
雜修在

之師海

事一始

節有候

厄排

寒念佛

あつとほそつひふふりけ排や

山石

思つたつてまふつていふ雑修息排

峰風

あつ作のつたさあやそあまて

十有

あつめつ味あ排 且てあつ排

日窓

人いさあひらのあ排しつる

迭窓

傍つらつと別とていりやああ排

奇窓

あつあ排やあつあ排しつる

松枝

あつあ排のあつあ排のあつあ排

五柱

あつあ排もあつあ排もあつあ排

八柱

あつあ排のあつあ排のあつあ排

光高

あつあ排もあつあ排もあつあ排

松め

あつあ排もあつあ排もあつあ排

陰風

あつあ排もあつあ排もあつあ排

南枝

あつあ排もあつあ排もあつあ排

芦碩

あつあ排もあつあ排もあつあ排

松丘

あつあ排もあつあ排もあつあ排

素高

あつあ排もあつあ排もあつあ排

伴菜

あつあ排もあつあ排もあつあ排

雪成

あつあ排もあつあ排もあつあ排

冠山

あつあ排もあつあ排もあつあ排

佐排

あつあ排もあつあ排もあつあ排

一送

あつあ排もあつあ排もあつあ排

旭高

あつあ排もあつあ排もあつあ排

栗線

あつあ排もあつあ排もあつあ排

松向

寒入

冬

寒水
寒月

書ひ不香種浸きや一寒の水
冬月や一草のかき葉も如湯き

半海
松月

寒雨

冬月や一雪をかり出せし梅の人
冬月ののくもまし一海の果
冬月や一松を抱せむ川の秋
傘ふふ流つておとや一雪の雨

梅向
梅名

寒梅

冬梅の枝ふふくく一雪の那
冬梅の名庭引たてし白ひく那

梅容
一松

寒内

風ふふく澄きる月や一寒の内
かゝ鮭も釣おく魚ををらりか

逸三
唾風

乾鮭

かゝ鮭や一たつとけくも市をこり

旭高

年木

梅も一雪おしり家ののこし一木く那

こき雄

年忘

ぬりくく一年のい来まき一薪に海
うめをくもおぼく来をく一木楳
とく一木想ゆり急きもせきりけり
三條海の流り拂ふや一雪をまれ

柏英
石芝

煤柿

来り年のゆりまのうや一年のまれ
ゆり雪をまらるる目をまらまられ
融るまき手造り酒や一と一志色
分別を替く一白と一わきれ
手造りもあつらふのや一と一高き
うりあつらひ氣の持やうそ一忘

等哉
委成

冬

餅つきや大のねて病る衰産口 林保

餅つきや一白つゝ小夜のあけら 春志

餅つきやねる雪より餅つきら 菘菜

餅つきやねるねらめきたー餅つき 喰風

餅つきやねる餅つきや一ツ家 牛左

餅つきやねる餅つき 川 杉事

餅つきやねる餅つき 年の中 杉事

餅つきやねる餅つき 年の中 里桂

餅つきやねる餅つき 年の中 梅程

餅つきやねる餅つき 年の中 喰風

餅つきやねる餅つき 年の中 旭高

餅つきやねる餅つき 年の中 月窓

行年 餅つきやねる餅つき 年の中 餅つき

餅つきやねる餅つき 年の中 一芳

餅つきやねる餅つき 年の中 一呼

餅つきやねる餅つき 年の中 里高

餅つきやねる餅つき 年の中 全

餅つきやねる餅つき 年の中 一芳

餅つきやねる餅つき 年の中 素輝

餅つきやねる餅つき 年の中 春志

餅つきやねる餅つき 年の中 菘菜

餅つきやねる餅つき 年の中 牛左

餅つきやねる餅つき 年の中 杉事

餅つきやねる餅つき 年の中 里桂

餅つきやねる餅つき 年の中 喰風

心を傾く音の虫歯ふひくくあり
 此をいへば 一 序 意 々 働
 惜むるありとももさるる年の御
 氷 豆 腐 の え や ら 能 あ が り
 上へ一人死ぬるの好とあるはく
 泣 離 一 一 も 旅 の う つ り 言
 袋 跡 の 外 子 粉 糖 も するふ 芸
 軒 ぶ せ き 一 一 菅 伐 の 松
 名 紗 と も つ 一 一 名 の 鳴 り 向
 涙 り 一 一 一 一 の 為 一 一 露
 鶴 鶴 と 一 一 一 一 の 小 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

海 露 高 海 露 高 海 露 高 海 露 高 海 露 高

心を傾く音の虫歯ふひくくあり
 此をいへば 一 序 意 々 働
 惜むるありとももさるる年の御
 氷 豆 腐 の え や ら 能 あ が り
 上へ一人死ぬるの好とあるはく
 泣 離 一 一 も 旅 の う つ り 言
 袋 跡 の 外 子 粉 糖 も するふ 芸
 軒 ぶ せ き 一 一 菅 伐 の 松
 名 紗 と も つ 一 一 名 の 鳴 り 向
 涙 り 一 一 一 一 の 為 一 一 露
 鶴 鶴 と 一 一 一 一 の 小 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

海 露 高 海 露 高 海 露 高 海 露 高 海 露 高

都くけの麻屋をなす押一色
さう難能のふぬ考社秋
野まかり隠さく花も雲 蔭
都は年々くく大和見 如

蔭 雲 阿 蔭

嘆を先んちあましく 遠 柳
の江志あつうふ吹ゆる 未 尽
旅の春らんやうさふなうさうさ
順に笑のお侍をまは
幸しむと試さるうのう 月 又 経
花のゆきとわと興む 一 一 一

遠 宇 素 涼 知 碩 涼 宇

あまの織人の町の秋あはれ
よの井さう 陽く 晴 一 一 一
身あまの社 蔭 ち 程も 子 起 一 一
そつと 思 一 一 一 福 子
路のさう 芦 穂 の 山 の 一 一 一
揚ひの 一 一 一 揚 一 一 一
他のもも 女 娘 の 一 一 一 一 一
任持の 一 一 一 一 一 一 一
休書も 一 一 一 一 一 一 一
まの 一 一 一 一 一 一 一
ゆうやこのにま 一 一 一 一 一 一 一
紙るふ 一 一 一 一 一 一 一

涼 宇 全 涼 宇 碩 涼 宇 碩 涼 宇

字 瀧の海を移さ池水小
 豊ハ昔社申かりき
 色あきかろく持合うそ
 女軍忠とん字も一はらき
 二三百子觸依のむ一拂ひ
 あく御を志すも縁あ
 女房うねる聲を寝もまは
 子刻うささのふ森ねうあう死
 さゆ小ゆきあまの片船
 きげん鳴あうきも増あび
 造師も吹屋きぞいあゆ何と
 中しぬきと大根きとあ子 漢

涼 礫 字 煉 礫 字 凍 礫 字 凍 礫 字

式部一ハ村の創海キリの家
 若やううか吐くあ住者ま
 石くたりにけり別ま行
 さく花ふさうの箱やねん
 たのまきとのまきと云

涼 礫 字 涼 礫 字

遠江安間氏無行

春の夜と池あさくおまはし哉
 おく飯小ねき古州の風
 霧の多轉くのを屋まき
 利毛の吹衣ふ天井と張る

孤 海 木 園 可 有 空 谷

月夜こころの白雲もあまらぬ
 氣さふ福神 清きる
 市立の思ひまじく 懐き 衝く
 家裁の世話をせわの世活好
 遠もゆも中々 若葉捲きせし
 中の己の目も涙連の案外
 花の枝 紙つやうも中り
 終のまげんを 蝶々の 影

潤 河 谷 有 潤 河 有 谷 河 潤

春の世話こころかのや 若葉
 名家お月の影も 古池

旭 高 河

小多好 晴り 叶は 踏も あり
 餌のまんと 頼つて み とく
 金屏ののちりも さまざ別 彦貴
 かしら 山家も 年終尾とあり
 どや ともも 重んみ ありあ けし
 森を 居て くら さま 別 彦貴
 かく とも ありあも とも ありあ けし
 彦根 彦根 の 来り 呼
 振舞の 吹弁 とも ありあ あり
 あり とも ありあ あり あり
 終り ありあ あり あり あり
 葡萄の 柳く 踏も あり

高 河 高 河 高 河 高 河 高 河

歌

楳也 衣袴あはれきくふやうの儀
強かふやうれきまふやうの儀
高守社 希い 海世をささうり 歌
強よ止まれと 後程—— 五
新慶 底やう、海をささうりたう
関原の ともめをひきうらぬふり
世ふあきぬ 天の志あうりも 別世
道く行りふも 牛一不勝のり
少くも南を海 縁海にうらわうり
衣ををきうらう。 海を海の味
掛引の 的いもつさぬ 海のつさ
懐疑者の 少くはかりきくうらう

高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海

あうらうふ十日の 菊の白ひぬ
華く 紙く 夕月社 五
さうらうら 不用を 掛く 雲の市
よつと 陰のひく 旅 医者
あそれとも 言つと 虎ら 而やぬれ
かりは 行ひふ 橋ひわと 上
新の 飯 喰うと まかり ふ午時ちく
村の 雑 夢に 肝の つぶさう
新の 花も つくく ともく 水 車
強も 踏く 春の 日社 五

高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海

上毛伊勢崎 揚洲 彦 具 州

歌

〇九十七

多き家の子跡にあれと月落く
能く清き水の多い新酒
用はした端のわつら葉を余り
浮世を捨てて念休の味
何れも又くそ多うたのう忘られ
清き道に鼻歌のふ藤州
まはれあつたををををを
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

高 白 淡 高 白 淡 高 白 淡 高 白 淡 高 白 淡 高 白 淡

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

高 白 淡 高 白 淡 高 白 淡 高 白 淡 高 白 淡 高 白 淡 高 白 淡

歌

茵のふあらしく白くを月不來
 常のせくくさるる落のゆき
 楸檜のふさへさるる穂のふさ
 能ふひしはは味ひ
 屏一掃とせのたより不積あう
 花ふきれとくまをせし一蔬
 第一まき神まきの数ふまの敷
 ともれくまにさるる著件

白 高 深 白 香 深 白 高

高らねぬをよほたり、 牡 若 潮 水

流れるくさるる 後の 翠 翠 伯耆 不 來

謀らるる片側町のつらありて
 大工 竹のやハ草のつらありて
 月とふと清ふかたらし不訪をれ
 ともく 独る 餘も 存くぬひやう
 きく 酒ふこくくくのおまを 試く
 何そと 恨ふと 茶と 茶と 茶
 虎と入やうさるる地のおま 銭
 扱ふも 兼る 傘の 弁 陰さ
 人遠く 不ふん と 考たり けり
 影をふあつあつ おまの 窓
 五竹と 水とを かりの 表の上
 車引くる 牛の 息

来 有 来 有 来 水 来 水 来 水 来 水

ちうやかい水鷗てありぬ蒲の弁 等 枝
 夏はあまののころの 月 一 枝
 多自中もあき山嵐も任列て 月 窓
 物事の静平都合も様あまを 枝
 ぶし〜の思ふと風のあたまか 窓
 能く小昔の氣の備ひも枝 枝
 とのる明けも挿絵と〜のそ 枝
 良縁を熱れ〜何れ枝を〜 窓
 男あ〜〜〜〜思ふ寒 垢 窓
 空の振鳴のけあ〜〜黄昏〜 窓
 時分〜〜〜の眼を〜〜〜 窓

ま〜〜〜〜〜の芽けやう
 柵〜〜〜〜〜の 枝
 林〜〜〜〜〜の係者〜 枝
 海もあまも夢の世の中 枝
 白丁の〜〜〜〜〜の 枝
 白丁の〜〜〜〜〜の 枝
 中〜〜〜〜〜の 枝
 新幸の〜〜〜〜〜の 枝
 笠〜〜〜〜〜の 枝
 庭〜〜〜〜〜の 窓

歌

たりけふあまのし脚をたあがうあつり
 くのあちつとも吹のぬこあつり
 月影ふ庭の氷柱輝やきき
 候をかきうふあたる葉の陽名
 けふも流るる紙乃書るあ
 野まやめくかきも虫ととも
 何まきくも草の白ひのたまひ吹
 目を何時を帰る心在
 半あきけ草々終れハ叶の露
 是のあつりあつりあつりあつりあつり
 けつりともあつりあつりあつりあつり
 幸一橋 燈のねの輝うら
 高 高 全 高 高 高 高 高 高

何れか〜老うらひまのあを連り
 ひよりうらつらぶ清佛のあき
 嫁白あきあきあきあきあきあき
 髪あきあきあきあきあきあき
 身あきあきあきあきあきあき
 髪あきあきあきあきあきあき
 黄んて白ん 柳ん 金 柑
 溜池を流るるあきあきあきあき
 岸〜あきあきあきあきあき
 君深小若くあきあきあきあき
 十方らあきあきあきあきあき
 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高

歌

行列をくうりむきまゝの林口
縁ふしと多い云 月 雨 湖

たけのこまゆふあをれく 鳥 雀 曲 川

垣根をめぐり夏の水吉 竹 菖

出くさけーあとのまゝまよひ接て

近ひ使ひ 兒供々もまきむ

ひ月の宵のくへて 涙まき

菖小あいのつくとあく 菖

川 流すを 枝梗とく 糸をまきぬく

腰低うしと道をわく

昔のあふあふの 水橋ををからー 一のね 川

及ふぬととも 枝らぬぬ 菖

涙ーきいニ踏と踏かきぬうけ 川

流るるの月を 昔あふるる 菖

本や即ハあふるるけのうふ沙流も流し 川

まきまきとてまきと紙の洞法 菖

とや角とつと向ふあひ一里あふと 川

膝のあふりをたきーあふるるか 菖

買合のいやーかぬも昔の陰 川

年よりうたふお方 枝なりり 菖

うら表まきぬい 紺の流あふるー 川

軍々やんえやんのつみきとら 全 川

歌

彼も清冷とあつきを掃分けけ
 ちりて寒烈に杖き 忘るる
 為ふのいさしつこくきりー遠き海に
 隣り同士のりりも 浦 連
 あちちのちを繋りけり又一度
 ちやうと出てある 池縁場の片
 哀れものを引くをよも 井ありや
 井の碧き名ハ源のいとはに
 志と願のふ形ふても ちりて海に
 新の下まて ちりてけく ぶね
 旅人も 巡廻 ちりて 志の とまひ
 ちりて ちりて ちりて ちりて

英 宇 英 宇 英 宇 英 宇 英 宇 英 宇 英 宇

ちりて ちりて ちりて ちりて
 りりも 碧き名ハ源のいとはに
 志と願のふ形ふても ちりて海に
 新の下まて ちりてけく ぶね
 旅人も 巡廻 ちりて 志の とまひ
 ちりて ちりて ちりて ちりて
 りりも 碧き名ハ源のいとはに
 志と願のふ形ふても ちりて海に
 新の下まて ちりてけく ぶね
 旅人も 巡廻 ちりて 志の とまひ
 ちりて ちりて ちりて ちりて

英 宇 英 宇 英 宇 英 宇 英 宇 英 宇 英 宇

歌

歌よよと吟く意はなる置る能
昔思ふも〜 閑者め極
此〜 夢小屋の〜 火あふつらうと
古皇祖の多き皇風俗
嗚か〜 ちあふと清る華の中雲
あ〜 疾りち〜 涙あまた〜 が
字 英 字 英 字 英

温泉 庚り秋秋屋登る四月月
笑ふ〜 卯のち乃帝
高敷守 老考をや〜 あ〜
あ〜 侍〜 ける 茶臼 櫻子
字 月 由岐雄 田月

初〜 も新よと顔乃以〜 宵小
まに歌〜 なく 跡の死
作 山小 疾る 移 離の 滅 築
信 考〜 り ち〜 雨 の 針
何〜 を 昔人 女の 神〜 のり
ゆ〜 の〜 き〜 あ〜 ち〜 こ〜 ま〜 り〜 け〜 ろ〜
一〜 二 綿 室 吸 扱 乃 以〜 ち〜 ち〜
男 行 遠〜 ち〜 遠 籠〜 ち〜 め〜
新 宮の 洲を 乗〜 小の せ〜 や〜
あ〜 ち〜 ち〜 ち〜 ち〜 ち〜 ち〜
戸〜 の〜 我も ち〜 を ち〜
あ〜 ち〜 ち〜 ち〜 ち〜 ち〜
字 月 字 月 字 月 字 月 字 月 字 月

歌

命をささぐりさすは雨降して
はらめめ首尾ふさの膝あり
からもたると月小いとき森乃空
秋もつちこあねのあつら
ふささうりもささぬ悪の薩茶
さうとトーつさきも勝つ世後り
よふ年し不敷く葉の味しらし
余らうふあつさぬ癖の自ら所
おろあのも初るいあさぬ飯あまを
新波海ふたのむ 困 志いれ
駒馬の歌を志しるき寒の志
ささめはあをささささく様共木

世 有 世 有 世 有 世 有 世 有 世 有

中かこい下働く 餅 新 理
生々味 刺しつけらるる髪
つらうしそ行はるあ 花ささく
雪解ふああふさる海川
石切の目形小鏡ぬ髪あめ 音
桐さる屋さく 家さる湯ふ籠
丁寧も糸糸をのけし善門糸
底意もあつぬ味あしらひ
ささもからるる空あめ 芝ささるら
まゆあめあさささささあ
あさささささささささささ

世 有 世 有 世 有 世 有 世 有 世 有

歌

重んずるも重んずる 貫 線

百十

かう推して行くつ影をよしの車に井戸
 とよりのと風の渡りくうも 寒
 月より行ゆ織の後引き——
 甲——の音少くして音——
 掃路の志加ろくろぬくまの足
 元もふらふら 雲の玉の名
 印の影の中れ不細くもい——お
 書活ふまきくは 遠くあつら宮
 遠近の橋のつら引 花くらとく
 花——たぬも 極句のぬ 鹿

有世 有世 有世 有世 有世 有世

ねる——ちか松川乃本くまは
 形ありなきかた形の 月
 穰——糸通の火のふねうら
 ちか——くまけまくとくまはし
 まるのやまてきまうく 州修縁
 うらら——まふり 蝶のあまふた
 北窓を弄きくく 老のひこり名
 ぬるまの底のくまふら
 六丁まきり 一場 けしこのき
 うつれおとまらうらうら 若きか
 鳥やたつらん 煙のかまたけ

旭 有
 蓮 有
 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有

歌

流の髪乾くあひまの門少り
身ふさききし一肌のうらら
お水のさめをぬから 起るる世
芭蕉の過ぎも月の人々も
空に今海を乞ふも海を 居
浪加波しき清き松茸
度山名をま今あふりふがら
似る類のあひ十二座の面
志きかぬうらふ身表の遠かき
石燈かきる喜の目社脚
蹴鞠の戯れもさな 腹さか
うらまをかきる今の世の中

周、高周高周高周高周高周

四角のつげし 萬草の酒
湯釜のあつる 深き草の助
時ををよひるはむぐり 席
撞かすつし 山寺の鐘も 牙え
庵さきさき 思ふ 眞ふ乳さきさ
母の糸々 糸さきさき 胸の糸さきさ
うらまをかきる今の世の中
宵月不草 雲人のうらまはひて
ものかきさきさき 砧さきさき
啼しきさき 砧さきさき 砧さきさき
志きかぬうらふ身表の遠かき

周、高周高周高周高周高周

歌

〇百十五

登りつゝ新なるか秋の月
 四の歌ふや一の経 冊
 百く古きおき外のおき小懐きれて
 神も佛もまゐらば 山
 今風俗もあつてもあつてもぬれ
 晴るるをさうしわさるるまの
 夕も風をまふ後ふ九 折
 遊ふあつぬ 流ま衣 文名
 音 宇 美 音 宇 音 宇

伊豆俳句即事

月を衣我あつゝ一く情をさり
 連 衣
 衣かふはのほんまゝの神
 衣 衣

車をとままはる水もつゝ色も
 多あつて切あつゝ一の音かゝる
 多や一らゝゝ多と傍つゝぬ
 多ゝひるお守り乃ふ清もあは
 半一様共屋けやもかゝる
 多ゝゝゝ 影もさうも解くさり
 息も油あつゝあゝぬ 移り氣
 白ひもあつゝとあつゝあゝ味
 多やまぢりり入やまゝ 月
 つまゝあゝ船の煙りの不明くと
 帳面終ゝゝ 恋野おか 了
 音 水 音 水 音 水 音 水 音 水 音 水

夢後處の二つうりの作ふあうふあ
 飢を晴つても雲振う
 ぐうぐうも愈りの遷き遠のつと
 まうりくと
 都まを引くく弱のかきり
 仲庭を秋の餞 別
 ちうんとたふふ自中ふ
 うううの房の白
 月ねんふせうううふ
 せうりちうかま
 何うかく茶小花ゆく人のさふ

谷 磨 谷 磨 谷 磨 谷 磨 谷 磨 谷 磨

閑 化 の まう け 雨 白 き

折まま又 抱うも 持ふり 女 節 花
 雨さう海まうも 書さうら 秋
 月のさけ 極う 錦の 涙を ぬく 涙
 袋色ううを おろま 後 こと 紅
 ううひまも 老を 出さ ぬ きて 下 行
 まうけぬとくうふまうの 單
 周 向の あまうり 満う ぐ ちの 世 々
 旅子 夢 言 金 白 一 ち ぬ
 後 深の 男の 髪も 切 若 ぶ けり
 飯 持 の ちう け まう け 何 せ ぐ ぬ

人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人

歌

〇百二十二

採 海の塵もさうけり 昔のさけ
標の自在のささく 中かき

薪のさきもさき 薪のさきもさき 薪のさき

志のさきもさき 志のさきもさき 志のさき

町人の御をささる 町人の御をささる 町人の御をささる

一帖のさきもさき 一帖のさきもさき 一帖のさきもさき

山あきのさきもさき 山あきのさきもさき 山あきのさきもさき

梅のさきもさき 梅のさきもさき 梅のさきもさき

鶯のさきもさき 鶯のさきもさき 鶯のさきもさき

陽のさきもさき 陽のさきもさき 陽のさきもさき

海のさきもさき 海のさきもさき 海のさきもさき

磯のさきもさき 磯のさきもさき 磯のさきもさき

さきもさきもさき さきもさきもさき さきもさきもさき

さきもさきもさき さきもさきもさき さきもさきもさき

さきもさきもさき さきもさきもさき さきもさきもさき

さきもさきもさき さきもさきもさき さきもさきもさき

さきもさきもさき さきもさきもさき さきもさきもさき

さきもさきもさき さきもさきもさき さきもさきもさき

さきもさきもさき さきもさきもさき さきもさきもさき

さきもさきもさき さきもさきもさき さきもさきもさき

さきもさきもさき さきもさきもさき さきもさきもさき

歌

晴くはれ花をよのひの光に照らす

難波町に伝はるる一 奥

あまの軍もあがくはるるをよのひ

雪おとすはらみくはるる

あはれの送りもよのひの光に照らす

椿もよのひの光に照らす

生マ新ふりあがりあはれをよのひ

桐の市に伝はるるをよのひ

あはれもよのひの光に照らす

あはれもよのひの光に照らす

あはれもよのひの光に照らす

あはれもよのひの光に照らす

あはれもよのひの光に照らす

あはれもよのひの光に照らす

あはれもよのひの光に照らす

あはれもよのひの光に照らす

あはれもよのひの光に照らす

あはれもよのひの光に照らす

あはれもよのひの光に照らす

あはれもよのひの光に照らす

あはれもよのひの光に照らす

あはれもよのひの光に照らす

あはれもよのひの光に照らす

あはれもよのひの光に照らす

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

歌

朽かゝる 藤多思の 極の 衝きく
琴の 刺しきも まゝ 俗の 草
ゆくりも 算の 算針より 表はして
人の 情を かゝる まゝの 啼
あらしも 水も 溢るも 井水 汲水
るを 市に 汲ふも 汲る 屈
琴の 音も 笛の 音も 吹草の 月
まゝの 草も 砂も 清くも 濁るも
ゆくりも 水も 舟の 船の 衣 俵入
誰が 形も ちがふ 金剛
朽合も 一 朽合の 茶も ちがひ

茶 用 成 用 成 用 茶 用 茶 用 成 用 茶 用

わづらひ ぬれ 汗も ぬれ 汗も ぬれ 汗も
糸も ちがふ まゝの ぬれ 汗も
佛の 白も つもる 速の 衣の 巾着も
ちがひも ちがひも ちがひも ちがひも
ちがひも ちがひも ちがひも ちがひも
茶も ちがひも ちがひも ちがひも
酒の 段も ちがひも ちがひも ちがひも
刻の 針も 何の 針も 針も 針も
川も ちがひも ちがひも ちがひも ちがひも
おの 針も ちがひも ちがひも ちがひも

成 用 茶 用 成 用 成 用 成 用 成 用 成 用

将琴をん琴盤者方小石あり

よき 某屋の火をたりのつあり

茶よりもまきしと思ふ月の思

扇をまきくまきししをを組

新緑のまきお梅のらひ遠く

花餅 通ひもはかるとくらし

山科 小石のつ影あり 是

身揃のらしき茶井ふと茶

ゆり 残る香ふたしと年う波

唯如 香しと希ふ帆をくら

石のうらあひ細きと道きしき

終るも運まきと夕のまきし

ふかきふけりうかり御ふ秋 壺

まねのふまきしに 辻 寮の尼

花の香る都も鄙をかきりま

水を秤ふかけるうららか

弘

海

弘

海

弘

海

弘

海

弘

海

弘

海

弘

海

弘

海

ね風のまきりしし 除夜の空

巖もサ秋もまきししをの

無端まきしまきし船具を運ふりん

てこれまきしあけつらき氣けしき

ねる小川のつら月思りをまき

柳移ふけける草のまきのを

永成

旭馬

来成

成

音

遊

急ぐ〜〜きやうも月ハ又々解合
 色はたれふ胡丁のどれやう
 清きと氣〜〜がう〜〜林の夕
 た〜〜ふ花ふが〜〜金
 け〜〜と〜〜案洲ふあ〜〜あ〜〜ん
 お〜〜た〜〜ぬがふ幸〜〜と〜〜け〜〜
 あ〜〜力出〜〜〜〜解〜〜考〜〜酒〜〜の〜〜日
 五〜〜と〜〜碑〜〜〜〜と〜〜は〜〜白〜〜面
 吉布〜〜の出入〜〜と〜〜年〜〜を〜〜夢〜〜の〜〜何〜〜日
 け〜〜〜〜へ〜〜苦勞志や〜〜〜〜い〜〜あ〜〜ふ
 お〜〜引〜〜ふ〜〜と〜〜の〜〜ま〜〜〜〜と〜〜海〜〜ま〜〜り
 とも川あ〜〜と〜〜不〜〜周〜〜の〜〜た〜〜る〜〜人

疾 大 社 笑 大 成 疾 疾 成 大 疾

介〜〜小〜〜け〜〜〜〜ま〜〜の〜〜海〜〜心〜〜月〜〜と〜〜花
 叶〜〜花〜〜の〜〜か〜〜ろ〜〜ま〜〜今〜〜年〜〜の〜〜う〜〜ら〜〜ら〜〜ん
 扱〜〜れ〜〜〜〜〜〜〜〜も〜〜急〜〜さ〜〜う〜〜ふ〜〜粉〜〜塵〜〜下〜〜像
 漏〜〜り〜〜を〜〜澄〜〜ま〜〜さ〜〜砂〜〜ま〜〜〜〜の〜〜水
 洗〜〜濯〜〜を〜〜〜〜た〜〜ふ〜〜あ〜〜や〜〜ふ〜〜く〜〜ま〜〜り〜〜空
 石〜〜の〜〜周〜〜ら〜〜〜〜支〜〜七〜〜々〜〜葉
 一〜〜ま〜〜ら〜〜は〜〜燈〜〜心〜〜け〜〜ら〜〜ま〜〜周〜〜の〜〜周
 多〜〜く〜〜碑〜〜ま〜〜ま〜〜〜〜も〜〜び〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜と〜〜ま〜〜る
 木〜〜の〜〜を〜〜高〜〜く〜〜や〜〜う〜〜ふ〜〜平〜〜家〜〜の〜〜跋〜〜送〜〜し
 長〜〜持〜〜昇〜〜〜〜ふ〜〜持〜〜の〜〜と〜〜ト〜〜か〜〜ま〜〜
 山〜〜の〜〜ま〜〜け〜〜〜〜も〜〜解〜〜の〜〜あ〜〜〜〜と〜〜つ〜〜あ
 ま〜〜り〜〜〜〜ま〜〜さ〜〜む〜〜さ〜〜ま〜〜の〜〜屋〜〜根

疾 大 疾 疾 大 疾 疾 疾 疾 疾 疾

らゆるくは萩のたふり咲きか
 津一 照く月の夕 露へ
 揚を何まゝの秋の二を自の舟つけ
 縁をぬけはかき死あし
 茶水たけを名をあらふ 神あそび
 二 葉の 枝く 風あそび
 車一 急を 露の あそび 露 露
 傷の 念を 小く 自他を ちり ちり
 まくわくは 江の 水 ちり ちり ちり
 空の 剣 ちり ちり ちり ちり ちり
 悲 海の 水 小く ちり ちり ちり
 大目くち ちり ちり ちり ちり ちり

赤 木 極
 居 居 居 居 居 居 居 居

上 弦を ちり ちり ちり ちり ちり
 露 小く ちり ちり ちり ちり
 新 葉の 小 初 の 影 影 を つく ちり ちり
 城 の ちり ちり ちり ちり ちり
 花 ちり ちり ちり ちり ちり
 上 小 ちり ちり ちり ちり ちり
 精 進 の 料 程 も ちり ちり ちり
 娘 ちり ちり ちり ちり ちり
 ちり ちり ちり ちり ちり ちり
 ちり ちり ちり ちり ちり ちり
 ちり ちり ちり ちり ちり ちり
 ちり ちり ちり ちり ちり ちり

居 居 居 居 居 居 居 居

耻のふもつて今ふ月め暮るま
ふしと解をきぬら秋水
捨のおくちうは経木よ風の流
竹の隈もかしく車一のく
花ありとひまきく守らぬ節を好
うしろ香のまげんえあまを
肩刺こよ己の香とゆえあまれ
縁うらのまぬ話ふゆさぬ
紙糊ハガのゆか能きと
掛し一丁のまきとあれる
野原うらまのせきしき田形時
平う伝る舟の自然解すむ

人 義 人 義 全 人 義 人 義 人 義 人

あつたはゆいしきとあまのきよさ
まきとあまのきよさ
野原うらまのせきしき田形時
平う伝る舟の自然解すむ
見ろあまのせきしき田形時
平う伝る舟の自然解すむ
存存小筏ちうしおく上州宿
移ふ時汗の迹もあれうた
座人のあまのせきしき田形時
平う伝る舟の自然解すむ
さうとあまのせきしき田形時
平う伝る舟の自然解すむ
藤小枝し物脊の仲

人 義 人 義 人 義 人 義 人 義 人 義 人

月ふらり ちる白し け所 花 葉 古
 雨の まるも ささやう 秋 旭 古
 形跡を 出さし 小春 作しを
 昔とて 昔のめし 小おらう
 すとくも 百度 実をき 昔とて
 昔とて 昔とて 昔とて 昔とて
 印ふし 小人のも 府ふ 命う 昔とて
 あの一 才きい せん 小 西 派
 卑 下す 糸の 流しの上 小 柳 思ふ
 五つ 酒あつ 間ひも ちつちり

雀 鳴 雪 解 の 空 紅 雲 心 車
 ひらり ー ー ー 折 舞 かけ の 榎
 土 利 うら 世 十 分 の 存 心 きた
 半 不 足 ぬ ぬ 鬼 打 せう
 浪 州 小 舟 の け の ち 紅 傘 と ちう
 面 鏡 と つ と の せう 神 棚
 け ぬ と せ 袴 と つ 帯 に 花 小 竹
 幸 一 表 と ちう ー ー 及 の け ちう
 曲 水 の 宴 う 満 ちう 品 の 川
 又 ちう かけ も ちん ちう の 手 前 若
 癩 疔 ちう かけ ー ー ちう け ちう ちう
 ちう ちう 温 泉 の 池 酒 坊 の 夕 暮

歌

拾の物哉ーたぬー小西ーたき
 まねく芒も今いうれー
 新もせーつをととのの吉弦之
 眼て今もあまの暮の幕引
 かりーと十三階を扱うて
 縫の多形り小舞を仕度す
 ひとむれハ四河よ八月の人
 らひあふーり島由茹菱
 みのと赤城抄ろー小運ふ冷
 風来大もまきー尾を巻く
 衣代もほくーも符合羽 露
 涙の中もだまる余あけのづー

古 糸 古 糸 古 糸 古 糸 古 糸 古 糸 古 糸

ころのあをやーあふたのあふれ
 ちかまーたねたきーき結来
 古 糸

首尾 陰 雜題 終

様場すれ空もや終らつる度よ
 鈴を延そんまつの終 終
 夏生虫 蛙のふんと暮らー
 窓のあまの絶をまきー片る
 庭のうらなうあまのあー
 秋の風情をまきー引板
 遠ののらもふ近よる徳屋 祭
 秋 終もまきのね花自り

陰 糸 陰 糸 陰 糸 陰 糸 陰 糸 陰 糸 陰 糸

恨し氣 川さかきあふちうた
あま合 扇らあきぬとつこ
目 曇り 雲 あり 結りし 昔より
是より 錦 飾り 調る あり 玉 糸
風 心 風 心

讃岐大田郡引田里即事

水仙の宮よ 消ゆるや 影の月
聲 一かきり 啼し 吾の 轡
あま 逢ふ 係を 夢屋 小く 暎て
時を あらう とも 船の 出支 度
かろ 又れ へ 遠る 燈の 美しき
園 庭も つの 小 窓を せふ あり
此 水 此 水 此 水 此 水

供 したる 大い 茅の 輪の外 へ 竹
ま したる 使ふ こと へ けし 舞
喧嘩 あり 沙 浜に 女房の つら くと
更く 隣りの 戸の へ げく 吹く
雨 掛の 蓋 され ぬと 物つ あり
雨 降り きて 山 中 降く けし 雨
あま されし 木の へ あり けし けし あり
後の 徳 屋の 昔 活し あり 鐘
月 三夜 又く とも 外 へ きた 残り
塚 の 際 あり けし あり 浪
花 へ 今 盛る とも あり けし あり
庭 へ 今 盛る とも あり けし あり

歌

月をまゝあやうらとららぬをたし
 そらりくく 置て 鱈たし ちき
 形か ちき ちき ちき ちき ちき ちき
 田んぼ ちき ちき ちき ちき ちき ちき
 ちき ちき ちき ちき ちき ちき ちき
 曲実の ちき ちき ちき ちき ちき ちき
 降さ ちき ちき ちき ちき ちき ちき
 ちき ちき ちき ちき ちき ちき ちき
 何事やら ちき ちき ちき ちき ちき ちき
 降さ ちき ちき ちき ちき ちき ちき

下 山 舎 下 山 舎 下 山 舎 下 山 舎

月をまゝあやうらとららぬをたし
 ちき ちき ちき ちき ちき ちき ちき
 田んぼ ちき ちき ちき ちき ちき ちき
 ちき ちき ちき ちき ちき ちき ちき
 曲実の ちき ちき ちき ちき ちき ちき
 降さ ちき ちき ちき ちき ちき ちき
 ちき ちき ちき ちき ちき ちき ちき
 何事やら ちき ちき ちき ちき ちき ちき
 降さ ちき ちき ちき ちき ちき ちき

下 山 舎 下 山 舎 下 山 舎 下 山 舎



光るも葉——氣のあき 鈴の空 下
 ありき——秋のききき 細道 山
 大んくかと思ふくく 八まぶら 倉 下
 梅抱あり——人恋——かろ 山
 何年くもきわぬ少衆の奇麗なり 山
 切戸開く——舟を 押 出 倉 下
 客くくく花の舞を 願ひし 山
 遊ふ 春をくくく 山

明治新五百題卷之下

明治新五百題人名録

東京	春湖	等哉	幹雄	聽松	一道	藤居	澄江
陶齋	單山	乙彦	素水	松雄	恭道	沙山	竹葉
宇山	霜村	雲外	翠葉	永壽	桂花	永機	謝德
五休	完岱	富水	吳仙	千畝	金羅	大喬	三守
精知	素石	予雲	晚香	常磐	茂翠	梅年	鶯空
和橋	山月	默平	種英	晚節	双山	尋香	月彦
西京	芥舎	十水	南德	連梅	碑山	梅敬	素考
犁春	大坂	潮水	南齡	流菺	似水	播磨	月沼
卓志	淡路	周策	晚香	洋々	阿波	堯年	雪江
雪野	竹左	菖溪	思風	宇雀	土佐	木雞	玄黙
松塘	五菖	伊豫	半窓	鶯居	佳笑	卓山	無世機

人名録

五拙	史敬	鼎湖	十湖	似水	橙秋	呂長	梅堂	靜處	交友	一榻	肥前
鷺後	鶩村	一圭	春葦	知綠	三楓	抱明	車友	美濃	芳直	山畝	出雲
淇水	通義	竹華	滎德	竹窓	躬元	柏英	禾啓	竹茁	芳笠	曲川	紀伊
九成	周湖	雨竹	靜盧	李川	羊山	鶯丘	拍二	二光	二江	佳大	芥大
曉鳥	木潤	々以女	芥秀	素木	英齋	素溪	醉雨	不言	佳大	聽濤	讚岐
壽計	甘谷	野風	石芝	素鱗	蓬宇	梅洲	荷庵	尾張	聽濤	近江	北翠
秋圃	祭城	耕齋	解掌	無一	蓬宇	素陽	可洗	羽洲	近江	一鼎	
延松	雲眠	梧城	遠江	其樂	百額	三來	來丈	甫			

拙叟	一有	素珀	錦坡	一叱	良保	龜石	晴月	再渡	子來	一呼	梅宿
雪香	一芳	素笛	松亭	越後	流芳	遊雅	雲臺	木生	晚香	幽草	幽草
雪紫	以足	蘭底	仙月	抱月	感之	湧泉	丈真	琴山	雨節	備後	豐前
青溪	一龜	雨曉	石甫	保壽	素青	蕉影	小谷	禾雄	喜水	喜水	飄舟
洗我	露心	風袋	春秋	鳳齋	南枝	拾月	禾雄	旭扇	翠影	豐前	伊勢
宇平	木兄	布尺	春漲	米花	空海	唇風	旭扇	路村	周防	伊勢	杲樵
未成	和翠	三桃	松花	得山	撫石	蕚英	路村	佳芳	春阿	杲樵	波聲
越中	可節	菊庭	西蘭	良山	貴山	雪朗	佳芳	伯蒼	長門	杲樵	波聲

人名錄

二

其山 暉水 清香 耕雨 霞明 素問 藏中 其有

陸奧 有川 **陸前** 寶山 木公 依子 葦子

士峰 松翠 **陸中** 龍山 少女 五白

盤城 桃壺 一瓢 喜雀 松星 示成 見二 虎心

玉光 寶龜 **岩代** 五成 清良 **羽前** 也足 五鳳

以一 一松 逸三 芦川 梅圃 梅丘 北遊 鳳尾

豈空 知十 知足 澄水 釣石 流水 立風 犂圃

柳水 柳舍 幹月 霞芳 太湖 素鳳 雲山 翫月

花民 風鶯 不白 小浦 好古 素山 喜哉 久榮

琴童 松奎 松帝 春山 松谷 松韻 子龍 唇風

霞洲 詠泉 猿壽 百谷 雪山 碩田 松民 醉花

霞仙 喜哉 **羽後** 唵風 素山 一水 一鼎 一柳

一爽 弄山 保榮 巴水 如山 雀聲 柳翠 可物

浪波 樂水 嵐松 葦叟 藪成 月輪 湖尹 五風

櫻山 其德 奇峰 淇山 自尊 含香 清逸 静淵

雪琴 翠月 康哉 葦窓 江春 **上野** 菜古 梅里

霖山 芳洲 半校 竹立 知里 栗左 良虎 乙瓢

か 赫眠 素若 素川 素洲 蘭庭 蘭月 蘭花

鶴翁 花友 光玉女 虹棧 兜洲 考三 丘虎 暉堂

明好 眠海 金重 遊望 水也 繁弘 松堂 案詠

壽筵 松巒 思樂 青我 清水 雪窓 青山 霖三

蛙周 靄外 春鳥 **下野** 此山 言海 守拙 茂精

武藏 完鷗 涼坪 一水 梅翫 圃柳 里桂 耕谷

大栗 位竹 吉東 曾木 一知 一郎 東風 輕白

壽水	春晴	俊齋	松月	三根	三雄	天遊	宗露
靜月	生具	靜遊	清古	石軒	仙林	精池	靜岳
永明	榮林	百之	莖生	瓢風	木夫	元雄	清湖
茶候	窓桃	豐	義堂	周齋	真路	如蘭	志一
洪齋	胡蝶	好風	子彥	湖舟	丁左	貞幽	尤文
琴史	可笑	一可	魯周	一川	半醉	芳賀	一芳
鶴翁	滴齋	季山	松英	三鳥	謝孫	竹世	春城
下總	汎翠	櫻居	季成	如木	步山	月杵	月彥
歸雲	照齋	松月	藤磨	蘭哉	東海	一澄	守黑
可都	樂只	画村	健齋	史雄	阿丸	山月	貞雄
幻史	上總	素齋	千里	柳蛙	歌曰	可月	樂山
知秋	羽山	枝鳩	三葉	喜山	涼花	友昇	柳水

桂月	文齋	文定	冠山	兩柳	兩笛	魚貫	吉水
淑人	泰雲	昏寶	泰山	可海	佳大	河旭	逸窓
一挂	維石	郁哉	芦川	一路	梅月	梅曉	梅長
白明	梅理	一得	伊文	芦碩	已松	豐積	平山
陶鷄	東翠	鳳二	保山	甫公	梅月	梅舍	豐旭
梅榮	保扇	梅林	老為	東逸	東井	知明	知白
李塘	良月	竹用	知麟	知山	知桂	知柑	竹溪
竹鱗	中和	降昇	林明	竹樓	枕石	千成	竹陰
潮光	竹園	柳心	流挂	知文	竹亭	里節	柳井
竹醉	竹左	柳枝	柳眠	乙年女	和親	柳雨	可嘯
列雅	武人	雙明	南木	素鳥	太賢乃	永成	宇晴
鶴汀	和親	花鳥	翫之	寬山	保直	步女	文庭

人名錄

敬月	月溪	文翼	馨月	桂室	月艸	文橋	五曉
虎遊	梧成	文彥	溪月	江齋	昆明	貞松	貞三
森鄉	貞松	喜雪	喜豐	遊鶴	其柳	金逸	勇雄
旭井	奇茅	宮城	仁里	喜明	九泉	起蝶	
春齋	喜遊	龜壽	春德	喜鳳	壽遊	其道	如翠
壽月	昇齋	曙山	松月	喜遊	儀誠	酒重	秋月
松園	薰風	森彥	瀨川	清志	泉溪	竹香	千嶽
早哉	文生	見聲	桂潭	竹里	清月	誠雄	清月
靖舍	山碇	陶鷄	竹養	深處	文五	松琴	松水
一竹	神浦				常陸	正喜	可昇
稻守	芦風	鷺沼	糸丸	一兄	一推	花彥	方多
白誓	甫竹	梅誠	楸年	米雄	梅茂	東雲	梅圓

千海	藤枝	知新	雀友	兔月	良齋	竹世	雀靜
千春	東虎	雀雅	陰年	柳子	甘露	笠友	
洋月	霞鄉	柳枝	霞舟	總月	麟角	可聞	窓月
恒丸	南舍	蘭岡	雨柳	花角	花友	桂下	阜山
鰐川	高角	櫻仙	三逸	龜遊	之幹	三圭	
壽山	松影	如水	是水	勝川	莖路	喜柏	曉戶
三里	歸來	美知丸	旭鶴	賞素	喜宗	羨躬	二水
二水	紫隱	榮花	二三	聞誓	史轟	瀨水	靜山
青哉	仙丸	龜年	龜月	梅梢	里九	素壽	如柳
壽玉	風扇	芭美	二石	柳志	遊子	壽玉	比良久
旭哉	開茶	草巴	壽水				
	伊豆	連水	始耕	梧桐	九成	相摸	壽道
					甲斐	竹良	杉夕

人名錄

守節	香芸	幾秋	信濃	月窓	雪洲	芝昭	泉殘
松翠	雪樵	洲白	清岨	雲老	靜秋	蕉露	省我
其殘	春鷗	千葉	春山	靜馬	蕉古	如水	積翠
水竹	松露	壽白	明鄉	如雲	如鳳	如水	明林
喜逸	茶好	鳩峰	三菱	龜泉	鄉友	杉志	其盛
田柳	文室	山石	吾柳	西洲	湖邊	湖邊	文義
一明	芦水	一壽	一山	圓山	一柳	梅園	白洲
一林	巖	梅曦	梅一	蜂遊	二香	芳辰	鵬山
園柳	一花	一夢	花子	梅向	梅月	米山	東岸
一枝	珍山	一定	長和	竹友	珍莊	桃叟	一聲
朝逸	一鳳	長樂	稻谷	甚一	梅枝	篤石	甘雨
一朴	得水	重瓢	一桂	寥湖	一昇	寥左	一芝

柳哉	黑川	一花	柳齋	一舟	龍虎	買竹	田月
可鍊	芭丸	梅女	可然	くぬ	佳糸	雲靜	蘿城
嵐厚	蘭峨	硯水	浪月	月望	布精	固坐	光齋
吉度	竹成	かつ女	束練	真琴	晒馬	遊月	遊燕
松屋	秋紅	若男	雪庵	雲老	吾柳	採花	護通
湖雪	吾佛	道生	備前	秋艸			
河内	快月	竹窓	魅村	攝津	松泉	卓志	
	山城	柳後	素考	大柳			
採索	筑前	石淵	和泉				
文器		能登	守朴	浮葉	志摩	一滴	千雀
鐵通	佐渡	節坐	越前	雪主			

明治新五百題人名錄終

人名錄

明治十四年四月廿一日板權免許
同年六月一日出版

撰者

東京府平民

橘田春湖
深川區中佐賀町二丁目廿四番地

同

三森幹雄
日本橋區蛸壳町二丁目四番地

編集人

千葉縣平民

東旭齋
下總國香取郡多田村七十三番地

出版人

東京府平民

江島喜兵衛
日本橋區本石町三丁目九番地

發賣人

千葉縣下總佐原村三百七十三番地

朝野利兵衛

小築庵主の撰
不去庵主の撰
影函庵主の撰

明治五百題

定價四十五錢 全五冊

同新

定價五十錢 全五冊

同新 近刻

定價十五錢 全壹冊

掌中 手洋燈

定價十五錢 全壹冊

掌中 娼情秘笈

定價十五錢 全壹冊

小築庵主の撰

娼情秘笈

定價廿八錢 全貳冊

娼情秘笈一編

娼情秘笈

定價廿八錢 全貳冊

伊勢松坂	全	本屋嘉助	遠州濱松	三盟社支店
全	山本龜太郎	全	見附	古澤良作
美濃大垣	全	藤原長平	全	酒井忠造
全	岡安啟助	全	二俣	天井金藏
全	平野利兵衛	全	掛川	大塚好五郎
全	三浦源助	全	相良	大坂屋弥平
全	水谷善七	全	駿河藤枝	遠州安兵衛
全	玉井忠造	全	静岡	塩川健三郎
三洲岡崎	全	伊藤文吉	全	佐藤俊平
全	高須又八	全	沼津	廣瀬市藏
全	村田英吉	全	全	吉成壽三郎
全	齋藤源三郎	全	全	小松浦吉
全	落合清七	全	全	荒川源助
全	白木健次郎	全	甲斐山梨	内藤傳右門

甲斐山梨	弁達會仕	武藏熊谷	松枝悦三郎
伊豆三島	全	全	洋田屋文次郎
全	小西又三郎	全	井上伊三郎
全	平野屋久七	全	藤屋源作
相摸小田原	米屋忠兵衛	全	山下安民
全	曾比屋平七	全	安喜良新四郎
全	大島沼郎兵衛	全	和田屋弥兵衛
全	山田淺次郎	全	石割一三
全	伊原	全	小松屋長七
全	橫須賀	全	木屋吉左門
全	武藏橫濱	全	和國屋清吉
全	深谷	全	多田屋嘉左門
全	酒井省吾	全	和國屋清吉
全	小野脩三	全	和國屋清吉
全	酢屋安兵衛	全	和國屋清吉
全	長島為一郎	全	和國屋清吉

越後葛塚	三條屋七十郎	周防岩國	米屋助右五門
全 長田	大坂屋榮左五門	長州萩	山城屋彦八
全 水原	二田屋沼八	防品山口	阿部準助
全 岡野	中村作平	筑前福岡	林 斧助
全 地藏堂	島屋六平	全 筑前	古野德三郎
全 小千谷	村田大三郎	筑後柳川	宮本字三郎
全 四谷濱村	伊丹屋藤吉	豐前中津	梅澤壽平
全 四ノ所村	小村屋定吉	全 筑前	野依督三
全 拍崎四谷	佐藤友吉	豐後佐伯	東 圓作
雲州松江	竹田 健	肥前佐賀	河内莊助
播磨姫路	下條弥三郎	全 長崎	以文會社
備前岡山	園山喜三右門	肥後熊本	長崎二郎
	小野長平	全 薩摩	水島貫之
	中島屋益太郎	薩摩鹿島	吉田甚兵工

李亨

手洋燈

對松弓山長編弱
佳幸因等哉因
聲應齊旭峰後

全壹冊

掌中俳諧法

定價十五錢 全壹冊

增補俳諧系衣

同八裁 全壹冊

俳諧林藤法杖

同壹裁壹全壹折

俳諧袖定規

同壹裁壹全壹折

開化柳文

同十二裁壹全壹折
懷中本銅板

